

令和4年度公益財団法人偕行社事業計画書

1 方針

偕行社は、新たな構想に基づく初年度として、安全保障等に関する調査・研究・提言及び普及、陸上自衛隊等に対する必要な協力、英霊の慰霊顕彰及び自衛隊殉職者の追悼等を行い防衛基盤の強化拡充を図り、もってわが国の平和に関する国政の健全な運営の確保に寄与する。

併せて、偕行社について広く周知して理解を深めるとともに、会員等相互の研鑽と親交を推進して団結の強化を図る。

2 主要考慮事項

(1) 安全保障等に関する調査・研究・提言及び普及

陸上自衛隊の憲法上の位置付け、運用上の課題及び安全保障戦略（陸上防衛戦略）について、部外協力団体・自衛隊の研究員等と連携して、安全保障等の研究内容を深め、その成果を政策提言（防衛諸団体との協同によるものを含む。）に反映する。

その際、偕行社と陸上自衛隊現職幹部自衛官、賛助会員、政府機関との緊密な連携に留意しつつ、研究の内容や成果を積極的に陸上自衛隊に対して提供するとともに、広く国民に普及する。

(2) 陸上自衛隊等に対する必要な協力

陸上自衛隊の諸活動に対して、隊力の補完等及び協力並びに相談・助言及び激励・慰問を実施し、その活動を支援する。

その際、陸上自衛隊が必要とする協力内容の把握に努めるとともに、陸上自衛隊及び陸上自衛隊の協力者等の偕行社に対する理解の促進及び陸上自衛隊との一体感の醸成に留意する。

(3) 英霊の慰霊顕彰

わが国における英霊の慰霊顕彰の現状に鑑み、国家として在るべき姿で英霊の慰霊顕彰が行われるまでの間、国家に代わり靖國神社において英霊の慰霊顕彰を行い、その意義・重要性について広く国民に普及するとともに、国家としての慰霊顕彰の実施について提言する。

この際、今後自衛官に戦死者が出た場合について研究し、国家としての慰霊顕彰の実施について提言する。

(4) 陸上自衛隊現職幹部自衛官等の偕行社に対する理解の促進

陸上自衛隊に対する必要な協力の充実及び適切な広報施策の推進により、偕行社の目的及び事業内容等について、現職幹部自衛官や法人賛助会員等に対して周知する。

このため、研究成果及び政策提言等の発信のほか広報の在り方についての検討を深化させその成果を広報施策に反映するとともに、当面、「修親」及び「朝雲新聞」等への投稿並びに幹部候補生に対する広報を充実させる。

(5) 会勢及び会費収入の拡大

ア 陸上自衛隊元幹部自衛官等の入会促進

引き続き、各地偕行会の協力を得て部内出身等元幹部自衛官会員数の増加を図るとともに、三木会・尚友会等の元幹部自衛官の入会促進に努め、新たな体制下における入会促進要領（退会防止を含む。）について検討し、年度内にその在り方を明らかにする。

イ 賛助会員の入会促進

偕行社の活動に賛同し協力する民間企業及び民間有志等の入会促進に努める。

(6) 効率的な事業の実施及び収支の改善

極めて厳しい財務状況に鑑み、年間を通じて効率的な事業の実施及び事業ごとの収支の均衡に努め、令和4年度の収支の改善を図る。

この際、新型コロナウイルスの感染の拡大に対しては、柔軟に対応する。

(7) 収益事業の検討

極めて厳しい財務状況に鑑み、収益事業による収入の向上を図るため、新規収益事業について検討する。

(8) 各地偕行会との協力

各地偕行会と協力して、必要な事業を推進するとともに、新たな体制における各地偕行会との協力要領について、引き続き検討し年度内にその在り方を明らかにする。

(9) 新たな体制における検討

新たな体制における諸問題について検討し、その解決策の具体化を図る。

3 主要実施事業

(1) 安全保障等に関する調査・研究・提言及び普及（公1）

ア 安全保障の調査・研究・提言（公1-1）

(ア) 「新防衛大綱・中期防に向けての課題を解明する（仮）」をテーマとして研究し、東アジア情勢の変化と今後の米中露の動向を分析し、米国の安全保障・外交政策や日本の安全保障戦略上の課題を明らかにする。その成果を研究発表会（講座）を通じて、国民世論への啓蒙活動を推進して、陸上自衛隊を支援する。

この際、必要がある場合は、政策提言研究会において検討し政策提言として理事会に諮り、偕行社として発表する。

(イ) 陸上自衛隊現職幹部自衛官・部外有識者・協力団体研究員等との研究交流の場として課題研究会を運営し、研究内容の深化及び充実を図る。

(ウ) 優秀な若手研究員を更に発掘し、幅広い研究体制を整備する。研究員の優れた研究発表については、つとめて『偕行』への投稿を勧め、更に一般誌等への推薦・紹介を行う。

(エ) 年度計画による隔月の研究発表会（講座）においては、聴講者との意見交換を重視する。

(オ) 研究員の次年度の研究課題と方向性について集中的に審議することを目的とし、8月上旬に研究員夏季セミナーを実施する。

- (カ) 第14回シンポジウム(令和5年3月)では、米中覇権争いの第一線で、日本が生き抜く上の問題点を明らかにして解決策特に、陸上自衛隊の課題と対策を発信する。公表テーマについては、8月の研究員夏季セミナーにおいて検討し決定する。
- (キ) 政策提言及び入会促進等に資するため、防衛政策等、特に現職陸上自衛官及び元陸上自衛官の処遇に関する研究を行う。
- (ク) 事業の実施に当たり、事業規模・要領の見直し特に聴衆の増加を図りうる部外有識者等による講演会を実施する等により収支均衡に努める。
- (ケ) 令和4年度安全保障研究講座等予定表・・・・・・・・・・・・・・・・別紙第1

イ 近現代史の調査・研究・提言(公1-2)

- (ア) 令和4年度から3カ年「戦後問題」をテーマとして研究する。本テーマは、現在の安全保障環境の基礎を形成した重要な時期であり、また最終年度である令和6年度は戦後80年となる節目でもある。
本年度は、「旧軍の終焉と対日占領政策」について調査・研究する。
- (イ) 年度計画による隔月の研究発表会(講座)においては、各研究員の発表に加え、部外研究者を招聘し講座の活性化を図るとともに、フロアとの自由討議により更に研究内容を深める。
また、中期的テーマである「戦後問題」を幅広く捉えた勉強会を開催し各研究員の調査・研究の深化を図る。
- (ウ) 各研究員の研究成果の活用については、その一部を『偕行』に掲載するとともに、過去に『偕行』に掲載された論文等の書籍化について検討する。
- (エ) 研究員の次年度の研究課題と方向性について集中的に審議することを目的とし、8月に研究員夏季セミナーを実施する。
- (オ) 第14回シンポジウム(令和5年3月)では、「戦後問題」をテーマとするが、その細部については8月の研究員夏季セミナーにおいて検討し決定する。
- (カ) 優秀な若手研究員を更に発掘し、幅広い研究体制を整備する。
- (キ) 令和4年度近現代史研究講座等予定表・・・・・・・・・・・・・・・・別紙第2

ウ 教育問題の調査・研究・提言(公1-3)

- (ア) 道徳の検証の一環として、軍人が体現した道徳の事例について、引き続き研究する。
- (イ) 教育問題について、部外識者の講演等を適時行い、委員等の識見等の向上を図る。
- (ウ) 研究成果を適時、『偕行』誌上を通じてその普及を図る。
- (エ) 部外組織との連携に努める。

エ 定期刊行誌『偕行』及び図書等の発行(公1-4)

- (ア) 『偕行』を隔月に発行する。
- (イ) 偕行社の公益広報誌の性格を重視し、会員の研究論説、シンポジウムや研究会の報告、部外研究者の記事や協力団体の論文との交換掲載、一般マスコミとは別の観点から自衛隊の活動周知等、幅広い内容で類似誌とは異なる広報媒体であるように努める。この際、各種の会員に配慮した内容構成に留意する。
- (ウ) 部外有識者、公立図書館、陸自の各部隊・機関の長及び地方協力本部長等に寄贈するほか、会員以外にも積極的に配布する。

- (エ) 図書等の発行
安全保障等に係る研究論文等を図書等として発行することについて、検討する。
- (2) 陸上自衛隊等に対する必要な協力(公2)
 - ア 隊力の補完等及び協力(公2-1)
 - (ア) 教育訓練、研究開発、後方支援、隊員管理などの分野において隊力等が不足している事項について、要請に応じて協力する。
 - (イ) 国の安全保障に関する陸上自衛隊の幹部教育等に対し、講師派遣等により支援するとともに、必要な情報を提供する。
 - イ 激励・慰問及び相談・助言(公2-2)
 - (ア) 陸上自衛隊の行う国際平和協力活動・災害派遣等の活動に対し、各地偕行会並びに自衛隊関係機関及び関係友好団体と連携して激励・慰問する。
 - (イ) 陸上自衛隊幹部候補生学校卒業式等に参加して激励する。
 - (ウ) 部隊等の記念式典に参加又は祝電を打電する。
 - (エ) 偕行社に寄せられるマスコミ・軍事研究者・部外者等からの質問・調査依頼について、可能な限り協力する。
- (3) 英霊の慰霊顕彰及び自衛隊殉職者の追悼、戦没者の遺骨収集並びに自衛隊殉職者遺族の援護(公3)
 - ア 英霊の慰霊顕彰及び自衛隊殉職者の追悼(公3-1)
 - (ア) 陸軍の全英霊の慰霊を重視して行うことなどから、従来齋行していた市ヶ谷台慰霊祭及び月例参拝を集約統合して、陸軍建軍後初めての国運をかけた対外戦争である日清戦争終結の4月17日に靖国神社において「偕行社慰霊祭」を齋行する。この際、「偕行社慰霊祭」の実施に先立ち、阿南惟幾陸軍大将茶毘の碑などに対する献花を行う。
自衛隊殉職者の追悼は、国家が齋行する自衛隊殉職隊員追悼式に参列し、国の存立を担う崇高な職務に殉ぜられた陸上自衛隊殉職隊員の御霊に対し、深甚なる敬意と感謝の意を表する。
 - (イ) 靖国神社の例大祭及び政府や協力団体の慰霊顕彰事業に参列・協賛する。
 - (ウ) 各地偕行会と連携し、護国神社の例大祭及び陸上自衛隊殉職者追悼式に参列する。
 - (エ) 陸軍墓地の整備を偕行社の事業とすることについて、引き続き検討する。
 - イ 戦没者の遺骨収集(公3-2)
戦没者遺骨収集法に基づく事業に関わる関係団体の活動に協力する。
 - ウ 自衛隊殉職者遺族の援護(公3-3)
自衛隊殉職者遺族の援護のため、防衛弘済会の行う援護基金活動に協力する。
- (4) 地域社会活動に対する協力及び国内外の友好団体との交流(公4)
 - ア 地域社会活動に対する協力(公4-1)
地方自治体等が実施する各種行事等を支援する。
 - イ 国内外の友好団体との交流(公4-2)
国内の友好団体及び米国等の陸軍等退役軍人の会との交流を実施する。
- (5) 集会施設等の運営(収1)
 - ア 集会施設等の運営
 - (ア) 『偕行』やホームページ等による紹介及び呼びかけ等により、会員及び陸上自衛隊現職幹部自衛官並びに関係協力団体の利用拡充に努め、収益の向上を図る。

このため、会館利用率の拡大及び使用料金の値上げ等により会館の収益率の向上について検討する。

(イ) 会員の親睦及び同好会活動並びに会員と現職幹部自衛官等の交流の場としての提供に努める。

イ 貸会議室の貸出(収1-1)

会員や関係協力団体に対して貸会議室を貸出する。

ウ 談話室の運営(食料・飲料の販売を含む)(収1-2)

食料及び飲料(酒類を含む。)の販売によるセルフサービス又はケータリングサービスを活用した飲食の提供を実施する。

(6) 図書等及び物品の販売(収2)

ア 図書等の販売(収2-1)

(ア) 安全保障等に係る研究論文等を図書として販売する。

(イ) 偕行社カレンダー等を販売する。

イ 物品の販売(収2-2)

偕行社グッズの販売を行う。

(7) 会員の研鑽と親交(他1)

ア 集会の開催(他1-1)

偕行社総会及び全国会長会同などを開催する。なお、全国会長会同についてはリモート会議で実施し得る態勢を整備する。

イ 定期刊行誌『偕行』の別冊付録の発行(他1-2)

会員相互の意見交換、親睦、連絡及び偕行社事業の各会への反映に資する会員向け広報誌として「花だより」・「つどい」を隔月に発行して会員に配布する。

(8) 広報活動

ア 偕行社を周知し更なる理解が得られるよう、ホームページ、フェイスブック及びインスタグラムなどのデジタル媒体を主要手段として、偕行社の歴史・伝統、事業及び活動を重視して広報する。

この際、安全保障・近現代史の調査・研究及びシンポジウムの成果の発表並びに提言の発信に留意する。

イ 広報にあたっては、現職及び退職幹部自衛官等に対する広報活動を強化し、偕行社が陸上自衛隊応援団の旗頭であることをあらゆる場を通じて周知徹底する。この際、各地偕行会との密接な協力・連携に留意する。

ウ 現職幹部自衛官に対する広報活動強化の一環として、幹部候補生学校卒業式における場を活用して偕行社の紹介を行い、偕行社と幹部候補生学校の連携を強化する。

エ 積極的な情報発信のため、メールマガジンを最大限に活用する。このため、登録者数の増加を引き続き推進する。

オ 偕行社の発信力を向上させるため、広報の在り方についての検討を深化させるとともに、その成果を広報施策に反映させる。

(9) 厚生活動

ア 会員の福利厚生活動を充実するため、各種同好会活動を実施する。

この際、各種イベントの開催により、陸上自衛隊現職幹部自衛官等との交流を図る。

イ 陸上幕僚監部及び中央業務支援隊が実施する展示会に努めて参加する。この際、ホームページを活用するなど部内外への積極的な広報に努める。

(10) 陸上自衛隊元幹部自衛官等の入会促進

ア 元幹部自衛官の入会促進

(ア) 元幹部自衛官入会の本年度全般目標を、入会者数250名以上、入会率10%以上とする。

(イ) 各地偕行会と連携し、偕行社に関心を有する陸上自衛隊現職幹部自衛官の退職時における入会案内・勧誘を重点として実施するとともに、「偕行」無料購読者のつなぎ広報等を実施して入会促進効果を高める。

(ウ) 入会促進特別委員会をもって入会促進業務を遂行する。この際B・U出身若年期委員及び部内出身委員を充実して運営する。また、各地偕行会入会促進協力特別委員との連携を強化し、情報を共有して、現職幹部自衛官が偕行社への関心を示し理解を深めるよう尽力するとともに、より多くの元幹部自衛官への入会案内・勧誘を実施する。

(エ) 引き続き、定年前幹部自衛官の偕行社に対する関心を高め、事後の入会促進に資するため、小平学校業務管理集合教育学生の偕行社訪問研修及び各方面総監部が実施する業務管理集合教育において「偕行社についての説明会」を実施する。

(オ) 入会案内資料を効率的効果的に使用する。

イ 賛助会員の入会促進

偕行社の活動に賛同し協力する民間企業（法人賛助会員）の目標企業数を通算100社に、同じく民間有志（個人賛助会員）の目標人数を通算1,000名として入会促進を実施する。

(11) 各地偕行会との協力

ア 各種事業の推進

引き続き、「偕行社と各地偕行会との協力要領（案）」に基づき、次の事業を推進する。

- ・ 護国神社の慰霊祭並びに殉職陸上自衛隊員追悼式への参列を支援する。
- ・ 陸上自衛隊が行う教育訓練等に対する激励・慰問を支援する。
- ・ 地元から派遣される陸上自衛隊の国際平和協力活動及び災害派遣部隊等に対する激励・慰問を支援する。
- ・ 地元の陸上自衛隊が行う各種行事等への参加を支援する。

イ 偕行社の将来体制検討の結果を踏まえ、偕行社と各地偕行会の在り方（本部と支部の関係及び協力・支援内容等）について検討する。

4 主要会議等

(1) 総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・令和4年10月 7日（金）

(2) 全国会長会同・・・・・・・・・・・・・・・・・・令和4年10月 6日（木）

状況により、令和5年 1月12日（木）

(3) 評議員会

ア 定時・・・・・・・・・・・・・・・・・・令和4年 6月17日（金）

イ 臨時・・・・・・・・・・・・・・・・・・上記の他必要の都度実施

令和4年度安全保障研究講座等予定表

月日(曜日)	講座	講師	テーマ
4月21日(木)	第82回定期講座	川瀬 昌俊 研究員	軍事と科学技術 —ゲームチェンジャーの虚実—
6月23日(木)	第83回定期講座	鈴木 洋志 研究員	朝鮮半島の最新情勢
8月18日(木)	第84回定期講座	渡部 悦和 研究員	米国の最新情勢
10月20日(木)	第85回定期講座	宮崎 泰樹 研究員	中国の最新情勢
12月15日(木)	第86回定期講座	中村 幹生 研究員	インド・太平洋情勢 —インドの視点—
令和5年 2月16日(木)	第87回定期講座	湯浅 悟郎 氏	備えるべき現代戦とは
未定	特別講座	部外有識者等	未定
3月	シンポジウム	未定	(夏季セミナーにおいて決定)

令和4年度近現代史研究講座等予定表

月日(曜日)	講 座	講 師	テ ー マ
5月14日(土)	第90回定期講座	池田 十吾 顧問	アメリカの対日占領政策
7月23日(土)	第91回定期講座	原 剛 研究員	国体護持とポツダム宣言
9月17日(土)	第92回定期講座	齋藤 達志 研究員	武装解除と復員・戦後補償
11月 5日(土)	第93回定期講座	横山 久幸 研究員	非軍事政策と戦後復興
令和5年 1月28日(土)	特別講座	未 定	主権回復と講和
3月	シンポジウム	未 定	(夏季セミナーにおいて決定)